

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
41	川崎市立住吉小学校	近藤 由起子

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・す 素直で明るくたくましい子 ・み みんなと仲良く助け合う子 ・よ よく考え最後まで頑張る子 ・し 信じ合い思いやりのある子 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を育て 確かな力を育む ・人権を尊重し 豊かな心を育む ・集団活動を通し 主体性を育む ・安全・安心 地域とともに歩む学校

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣、基礎・基本的内容の定着をめざし、誰も一人にしない、誰一人取り残されることのないよう、学び合いを大切にしたい授業を推進する。 	<p>国語科の研究3年目となり、話す・聴く力を育む「はなすきタイム」や国語科の授業で培った伝え合う力が他教科等や日常生活でも発揮される場面が顕著に見られるようになった。担任間の交換授業や専科の授業等を取り入れ、複数の教員で児童の指導にあたり、個々の児童に応じた支援も継続してきた。GIGA端末を活用してドリルパーク等に繰り返し取り組むことで、基礎基本の定着を図ることができた。</p>	<p>今後も、GIGA端末を効果的に活用し、学び合う、関わり合う等協働的な学びを大切にしながら、児童一人一人が分かる授業づくりに努めていく。</p>	
2	<p>1の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を育て 確かな力を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけたい力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るため、校内研究、研修等を充実させる。 ・情報活用能力を基盤として、様々な人・もの・こととのつながりを通し、教育内容の質を向上させ資質・能力の育成に努める。 	<p>国語科の校内授業研究の充実に伴い、相手意識や目的意識をもち、「なぜだろう」「知りたい」と児童の疑問、思いや願いから「問い」を生み、その「問い」を個で考えるだけでなく、協働しながら解決していく学習を構築して取り組んできた。また、地域の人・もの・ことと連携を図り、探究に努めてきた。そのようなプロセスの繰り返しを通して児童の主体性が育まれてきたと考える。また、GIGA端末の操作にも慣れ親しみ、課題に対する調べ学習や考えの共有まとめとしてのプレゼンテーションにおいては、GIGA端末を効果的に活用できるようになってきた。</p>	<p>これからも、地域の教育資源を生かすことで資質・能力を豊かなものとして伸ばしていく。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と体力づくりの向上をめざし、キラキラタイムの充実、健康教育と食育の推進に努める。 	<p>毎月の生活のめあてへの取組や家庭科や体育(保健)、学級活動を中心とする様々な授業において、栄養教諭や養護教諭との連携を図った授業を系統的かつ計画的に取り組んできた。専門性のある教員からの指導により、児童の必要感や問題意識を引き出し、実践しようとする態度につながり、幅広い視野に立って学ぶことで健康についての理解を深めることができた。また、キラキラタイムでは、楽しみながら児童の体力向上を図るために、縄跳びやボール遊び、鬼ごっこ、5分間マラソンを実施している。</p>	<p>今後も、キラキラタイムで日常的に基礎体力を養いながら、栄養教諭、養護教諭と連携を図って系統的な指導を積み上げていく。</p>	

4		<ul style="list-style-type: none"> ・子供の声に耳を傾けるなど、いじめ・不登校未然防止に努め、一人一人にとって居心地のよい学級、学年づくりをめざす。 	<p>学校生活全般で、先生は相談にのってくれると思うという児童・保護者が多い。担任が児童の困り感を察知し、全教職員へ共通理解を図ってきた。児童の様子を見て声をかけたり、GIGA端末でやりとりをしたりして、子に応じた支援に生かせるように努めている。</p>	<p>肯定的な意見が多い一方、肯定的ではない意見があることを見逃さず、今までの取組を継続するとともに、何か気になることや気付いたことがあったら、すぐに相談できる環境づくりにさらに努めている。</p>
5	2の柱 ・人権を尊重し豊かな心を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応と協力、関係機関との連携に努め、支援体制を充実させ、学校生活を楽しいと感じられるようにする。 	<p>児童も保護者も、児童が楽しく学校生活を送っていると感じている。各学級、学年の取組や支援体制が児童に合っていたと思われる。一方、否定的な回答をしている児童もいることから、すべての児童が楽しく学校生活を送れるよう「共生＊共育プログラム」の実践や日々の学校生活の中で「楽しい」と思える経験を重ねてきた。</p>	<p>日々の学校生活の中で困り感をもつ場面がでてくるとも考えられるため、アンケートや効果測定の実施後に個別に聞き取りを行うなど、支援教育コーディネーターを中心とした体制をつくり、多くの教職員で様子を見守りながら支援していく。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、道徳教育、共生＊共育プログラムの実践等を通して、自己肯定感を高めさせ、自信をもって生きていく姿勢と、互いを尊重しあう思いやりの心を育む。 	<p>なかよし班や各委員会が企画したイベントなど、異年齢集団での交流を積極的に行ってきた。児童同士がお互いを大切にすることがうかがえる場面が多くあった。日々の児童の変化を敏感に感じ取り、より丁寧にかかわるよう心がけてきた成果が表れていた。</p>	<p>学校生活の中での友達とのトラブル、日々の言動から、自己肯定感をより一層高めていく必要性があると感じられた場面も見られたので、成功体験を積み、自己肯定感を高めていけるように支援を充実させていく。</p>
7	3の柱 ・集団活動を通し主体性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学校生活を送るために、目標を立て、それに向かい努力する子供を育てる。 ・子供の意見が反映されるように委員会活動やクラブ活動での話し合いを充実させ、よりよい学校をつくる場を設定する。 	<p>児童は、係や当番活動、委員会活動に進んで取り組んでいた。その様子からは、皆の為に活動できたという充実感を味わえたことが伝わってきた。係活動では、上級生になるに連れて様々な意見が出たり積極的に活動したりするなど、毎年各クラスで工夫して活動している経験を生かすことができていた。代表委員会では、全校児童meetで話し合いの様子を視聴し、教室からも話し合いに参加していた。低学年から高学年の一人一人が議題に対して、自分事として捉え考えることができ、主体的な活動へとつながっていた。</p>	<p>今後も全校で住吉小学校をよりよくする活動を考え、実践していく。</p>
8		<ul style="list-style-type: none"> ・子供の創意を大切に、学校・学年行事に取り組んでいく。 ・たてわり班活動、音楽集会など、異学年交流を意識した活動の充実を図る。 	<p>児童は、学校行事に主体的に関わっていた。運動会ではスローガンをもとに、全校児童が一丸となって取り組むことができた。また、応援合戦や団体競技などプログラムの幅も広がり、より一層「運動会を盛り上げたい」「楽しみたい」という気持ちをもって望むことができた。月に一度のなかよし班活動では、ペア学年が互いにルールや遊び方を工夫しながら異学年交流を実施している。委員会活動では、慣行委員会が鯉の餌やり体験、スポーツ委員会がシュートゲームなど工夫を凝らした活動を行っている。</p>	<p>今後も、児童の思いを大切にしながら、学校行事等の教育活動の充実に向け、取り組んでいく。</p>

9	4の柱 ・安全・安心 地域とともに歩む学 校	・ボランティア、地域の人材、地域環境を活用し、地域の特色を生かした教育活動を推進していく。	今年度は俳句教室や茶道、出前ごみスクールなど、外部講師を学校に招いての授業だけでなく、1年生と園児の交流、3年生のプレーメン商店街を盛り上げるための活動、4年生の特別養護老人ホーム訪問など地域とかがかわる学習活動に取り組んだ。児童会活動では、敬老の日に地域の方々へ手作りのプレゼントを代表児童が朝会で直接渡すことができた。	社会に開かれた学校づくりを目指し、「人」と触れ合う活動が子供たちの学習意欲や思いを高めることにつながっていることをもとに、今後も地域と関わりがある学習活動を取り入れていく。
10		・各種便り・HP・懇談会の充実に努め、積極的に情報発信する。また学校説明会・報告会・学校教育推進会議を有効活用し、学校に対する理解と教育活動の改善に努める。	コロナ禍以前のような行事や授業参観ができるようになったことで、より保護者の方に学校の様子を伝えられた。	今後も学校・学年だよりやホームページを通じて広報したり、保護者の方の協力を得ながら学習活動を行ったりして、「お家の人と学校の話をした。楽しい思いを共有できた。」と子供たちが実感できるようにしていきたい。
11		・安全、安心な学校生活を送れるよう、危機意識をもって自らが命を守る交通安全、防災・防犯教育や情報モラル教育を推進する。	今年度は、以前のような避難訓練や全校引き取り訓練、1・3年生の交通安全指導を実施することができた。総合防災訓練では消火器使用体験や起震車体験など、実際の災害を想定し体験活動が、児童の安全意識を高めていると考える。また、PTA活動としての安全マップ作成も意識付けの一つになっている。	夏休み明けすぐに行っている児童引き取り訓練については、来年度は時期を早め、学校全体でより危機管理意識を高めていけるようにするとともに、継続的な安全学習の機会を設定していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが主体的に活動に取り組み、自分たちで学校をよりよくしていこうとする姿に感心した。 ・1年生からいろいろな先生方と触れ合う機会が意図的に企画されていて、自分たちが子供のころとはずいぶん違うことが分かった。 ・子供たちが達成感を感じられるように、先生方が指導していたり、地域の皆さんに支援してもらっていたりしていることが、よく伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、専科授業や、交換授業を計画的に行い、何事も担任一人で抱え込まない体制づくりを進めていく。 ・子供たちも多くの先生とつながることで、誰かに相談できるよう、環境づくりを整えていく。 ・代表委員会を中心とした、子供たちの手による、よりよい学校づくりが進められるよう、委員会活動の充実も図っていく。 ・校内研究を軸に、基礎基本の定着、子供たちが学習に意欲的に取り組む授業づくりの研究・研修に努めていく。